

# 第4回 Saitama Line 報告号

今回の講師は…  
東京家政大学教授

## 花輪 充 先生



『楽しい保育』とよく言いますが、幼児になったら『おもしろい保育』をしてほしい！  
「おもしろい保育とは『わくわく ウキウキ ハラハラ ドキドキ』する保育。」  
そんな話から花輪先生のお話が始まりました。

『表現』とは「オモテにアラワス」こと。そのオモテの裏には内なる感動や意思が隠れています。目に見える「オモテ」に現れたことだけにとらわれていませんか？子どもたちの表現を上手に受け止め、表現の中に息づく心情を見逃さないでほしい！という先生の熱い思い…。そんな話を聞いて『あの時のあの子の行動の裏にはどんな思いがあったんだろう…』『自分の価値基準で押し付けてしまっていたなあ～』などと、日々の保育や子どもへの関わりを振り返るきっかけになりました。

そして、もう1つ多くの参加者の印象に残った言葉が『理解は誤解』でした。「“あの子のこと分かった！”と理解できたつもりになってはいけません。日々変化、成長し続ける子どもたちを保育者は分かっていこうと続けていくことが大切。」だとお話して下さいました。グループトークでも『理解は誤解』について話し合ったグループも多かったようです。

### 『わくわく ウキウキ ハラハラ ドキドキ』できるあそびを実際に体感！

#### 2人組で

- 前後に並び、前の方は楽しく移動し、後ろの方は前の方の真似をしながら付いて行く
- 顔を見られたら鬼交代という鬼ごっこ！『用意、スタート！』で逃げる人は自分の顔が見られないように逃げたり、顔を壁や床にくっつけたり、オニは顔を見ようと追いかけたり、まわり込んだりする
- 向かい合って手をつないで、言われた抽象的な言葉を2人で一緒に表現する

★あそびの中で参加者それぞれの個性があらわれ、みんな子どものように楽しんでいました。

#### ～参加者の声から～

- 今日教えてもらったものを子どもたちがどのように表現するか実際に園で子どもたちとやってみたいと思います
- もっと子どもの言葉や表情、行動に目を向けて気持ちを受けとめていけたらなと思いました
- 他の市町村での保育の様子を聞くことができ、自分の中の“当たり前”が少し変わりました

#### 8人組で『アニメイム』

ウレタン棒を1人1本持ち、仲間と話し合い、アイデアを出し合いながら曲げたり、丸めたり、つなげたりして動物を作ったり、うた「チューリップ」に合わせて、物語を作ったりしました。

